図書館へ行こう！

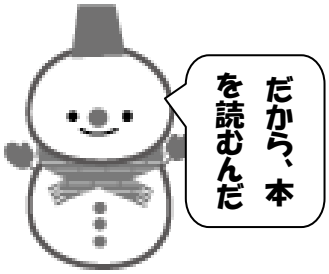
寒い季節がやって来ました。屋内で過ごすことが多くなるこの時期は、長めの小説や分厚い本にチャレンジしてみましょう。本は、心に栄養を与えるだけでなく、目標に向かって進む力と将来への自信を与えてくれます。　この１冊に出会ってよかった！そんな本との出会いは、この冬に訪れるのかもしれません。

冬休み特別貸出のおしらせ

期　間　12/16(金)～12/27(水)

貸出上限冊数　一人１０冊 まで

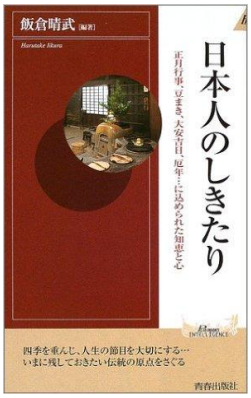
返 却 期 限　2017 年1月 11 日(水)厳守



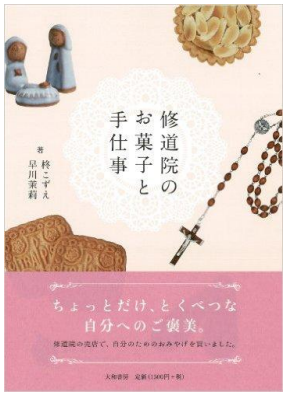
この冬、とっておきの一冊に出会いましょう♪

太陽は兄弟、月は姉妹、野の小鳥もけものも魚も、美しい自然も、あなたも私も、造られたすべてのものを兄弟姉妹と呼び、すべてのものを愛さずにはいられなかった。聖フランシスコの歩む道―

光と影の芸術人、藤城清治。聖フランシスコの愛と祈りの道を、21 年の歳月をかけ創りあげた藤城氏渾身の１冊です。



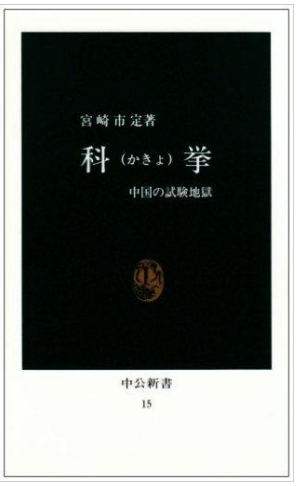
初日の出はなぜありがたいのか？初詣の本来の意味は？鏡餅はなぜ丸餅を二つ重ねるのか？おせち料理は正月料理？節分には何故豆まきするのか？ひな祭りって何を祝うの？お月見をなぜ十五夜と呼ぶのか？・・・・・など、私達日本人が習慣として行っていることを分かりやすく解説した本です。年末年始のこの時期、あらためてしきたりの意味を考えてみましょう。



全国の修道院で作られているお菓子、雑貨、編み物……光と静寂に包まれた癒しの空間と、そこで日々を営む修道女たちの丁寧な手仕事の数々。山口、大分、函館、京都などの修道院を巡りながら、そこで作られているお菓子や雑貨などを紹介した本です。著者は喫茶店研究家。カフェの視点から取材されているのが興味深い１冊。

先生方おすすめの１冊　社会科　竹村茂紀先生のおすすめ

宮崎市定著『科挙』



みなさん試験が好きですか。私は今でも嫌いです。中学時代は、こんな制度を作った人を恨んだりもしました。

筆記試験の合否により進学や就職を決める制度は、中国の隋代に始まった科挙にさかのぼります。587 年に始まった科挙は、元代に一時停止しましたが、1905 年に廃止されるまで 1300 年以上にわたって続きました。ヨーロッパでも科挙は高く評価されたと言われています。

この本は、中国史の泰斗がわかりやすく科挙の歴史を解説しています。ページをめくるといきなり飛び込んでくるのは、裏表に 70 万字も書かれた下着です。カンニングのために着込んで入室したのでしょう。もちろん不正行為は許されるものではありませんが、その執念に驚いてしまいます。

科挙を受験するためには、まず儒学の基本文献である四書五経をすべて覚えなければなりませんでした。総字数は約 43 万字もあります。それに加えて、注釈書、歴史の本、文学の本を読み、さらに自分で漢詩を作る練習もしなければなりませんでした。効率よく勉強するために、科挙用の問題集も売られていました。今までどこがよく出題されているか、どのあたりが出題されそうかをまとめた本を買い求める人も多かったようです。　　試験勉強が辛いのは、いつの時代も同じだったのです。